



2023 年度 愛知県公立高校入試問題

分析コメント

教科	コメント
国語	<ul style="list-style-type: none">・現代文は説明的文章(論説)と文学的文章(小説)が出題され、古典は漢文(書き下し文)が出題された。大設問のパターンは、2022 年度の A グループと同じであった。・総設問数は 18 問で、そのうち4問が2点配点のものであったが、2022 年度までと異なり、2点問題のうち2問は部分点が付くものとなっていた。・現代文の文章はいずれも読みやすいものであったが、漢文は内容がやや難しく、小設問も小説や漢文で差のつきやすいものが増えた。・マークシート方式になったことにより、要約を記述させる問いの代わりに、生徒が段落の内容をまとめた文章の評価を選択させる問いが新たに出題された。
数学	<ul style="list-style-type: none">・2022年と比較すると、大設問2の証明や事象と関数、大設問3の図形の小問(2)①、(3)①に代表されるように、基本的な考え方に基づく解決しやすい内容が多く、やや易化したといえる。・例年出題されていた座標幾何の問題や方程式の文章題の出題がなかった。
社会	<ul style="list-style-type: none">・2022年度A・Bグループと比較して、やや難化。・すべて選択問題になったことに伴い、完答形式の出題が増え、資料や問題の文章を読み取る能力が例年以上に求められた。・完答形式の問題が増加した(9問)。・公民分野は大設問 1 題となった(5のみ。ただし公民の合計設問数は 2022 年度と同じ)
理科	<ul style="list-style-type: none">・全体としては昨年の A・B グループよりやや易化。特に物理(大設問4・6(2))の問題設定が単純になった。・問題文の文字数が減少。会話文形式の問題も無くなった。・地学(大設問5)では、データが表になったことで読み取りに時間がかかった(通常はグラフでの出題)。
英語	<ul style="list-style-type: none">・筆記検査-大設問3の単語数が約 100 語減り、この点ではやや取り組み易くなった。なお、大設問3(5)で日本語の要約メモを完成させる新しい形式の出題が見られた。・大設問4で表を読み取って解答する形式の出題が見られた。・読解力や情報処理力が問われる出題であったが、問題の難易度としては、記述の英作文がなくなったことにより、昨年度の A・B グループと比べてやや易化した。